



情報提供資料

TDAMフォワード・ルッキング・リサーチ

債券運用部 チーフ・ストラテジスト兼ファンドマネージャー 浪岡 宏, CFA

2025年1月28日

～はじめての暗号資産投資は大変でした～

今年1回目のレポートは普段と趣向を変えて、筆者の初めての暗号資産投資体験記(注)、というエッセイ的な内容にすることにしました。

まず、筆者は昨年末に暗号資産投資を始めたので、初心者である。かつての暗号資産ブームを踏まれば、「今更か」という指摘もありそうだが、この点をご容赦頂きたい。

投資をするに当たっては、当然のことながら、複数の書籍とウェブサイトをもとに勉強した。うち1冊は2017年5月に書かれたもので、その後の展開(書籍に書かれていた予想とは異なる展開、書籍で賞賛されていた暗号資産の衰退)を知っている筆者としては、改めて暗号資産という投資テーマはいかに流行り廃りが激しいものであるかを痛感した。

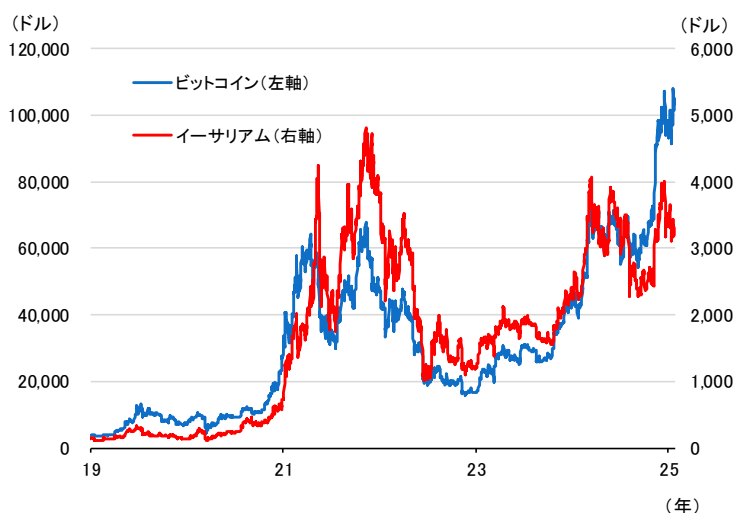
投資を始めるにあたっては、2社で口座開設をしたが、やや難儀なものであった。各社のウェブサイトを見る限りは、数分で口座開設できと思っていたが、実際には書類の審査に時間を要した会社もあった。

また、税金の面についても、証券取引とは勝手が異なるところもあり、確認に時間を要した。

無論、取引を始めると、どの暗号資産が投資妙味があるのかも手探りであった。この点については、いろいろと調査分析し、「推し」の暗号資産をいくつか見出した。もっとも、これについては本レポートでは立ち入らず、別の機会に譲る。

なお、証券取引との違いで他に気になった点は、変動率の大きさとビッドアスクスプレッドの広さである。もちろん、各暗号資産や時期によって異なるであろうし、スプレッドについては取引業者によっても異なるだろうが、伝統的な資産との違いが目についた。

(グラフ) 主要暗号資産の値動き



期間: 2019年1月1日～2025年1月23日(日次データ)

(次頁に続く)

注: 暗号資産への投資に関しては、当社の所定手続きをふまえ投機的な取引とならないよう留意しています。

出所: BloombergよりT&Dアセットマネジメントが作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。本資料は作成時点での見解であり、今後予告なく変更する場合があります。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。



さて、そもそも暗号資産に投資することにしたきっかけは、昨年行われた米国大統領選で、トランプ氏が勝利したことである。トランプ氏が勝利することで、暗号資産を巡る規制を含めて、広く金融規制等は緩和されると見込まれていた。実際、トランプ氏は大統領選での勝利後に、証券取引委員会（SEC）の次期委員長に、暗号資産推進派のポール・アトキンス氏を指名すると発表した。

また、同氏は、ブロックチェーンの活用を推進する組織である「トークン・アライアンス」の共同議長の経験もある。ブロックチェーン技術は、暗号資産の根幹でもあり、一方で、金融や政府の効率化に貢献することも期待されている。

これは、最近、米国の政府外助言機関から政府機関に昇格した「政府効率化省（DOGE：Department of Government Efficiency）」にも関連するかもしれない。同省は、政府の効率化に向けて連邦政府の支出削減や、規制の緩和を進めるとみられる。ここでブロックチェーン技術が役立つのではないかと予想される。ブロックチェーン技術は、従来の中央集権型のシステムとは違い、分散台帳技術を用いることから、過去のデータが改ざんが難しいことや中央管理者を必要としないためコストを削減できるとみられている。

また、この組織をイーロン・マスク氏が率いていることにも注目したい。マスク氏は以前、DOGEコインと呼ばれる暗号資産への支持を表明していた。マスク氏がトランプ氏に多額の献金をしてきたことから、大統領選でトランプ氏が勝利すると、DOGEコインは大幅上昇した。先行き、更に上昇するかは定かではないが注目はされる展開になりそうだ。

このような状況を踏まえて、最後に、伝統的資産の投資に示唆を与えるとすれば、以下のようなことが言えるだろう。

暗号資産そのものへの投資にハードルがあるとすれば、暗号資産関連株への投資、というのも一つの方法ではないか、と考えられる。かつて、ゴールドラッシュ時に、金を掘った人よりも、スコップを売った人が儲かった、という見方が多いように思うが、蒸気船や鉄道などのインフラも発展を遂げたことは記憶に留めておくべきだろう。これに倣えば、暗号資産そのものでリスクをとらずとも、暗号資産取引所や暗号資産に関連するフィンテック銘柄なども投資妙味を見出せるのではなかろうか。